MOVE MOVE ARCHIVE BOOK

青葉通仙台駅前エリア
社会実験 MOVE MOVE
アーカイブブック

MOVE MOVE ARCHIVE BOOK

はじめに

令和4年（2022年）9月23日から10月10日の18日間、
仙台駅西口のペデストリアンデッキを降りた青葉通仙台駅前エリアで、
社会実験が行われました。

商業施設・EDEN側の公共空間では、実験のコンセプトを踏まえた
空間をつくり、「MOVE MOVE（ムーブムーブ）」という愛称をつけました。
MOVE MOVEの空間では、曜日や時間帯毎に様々なコンテンツを実施し、
この空間に訪れた人々がどのように過ごすのか、
空間の使われ方とその効果を様々な角度から検証しました。
また、旧さくら野百貨店の建物の一階には、青葉通の過去の写真を
大きく掲示し、まちの変遷を振り返ることができるようにしました。
普段とは違うエリアの設えに、行き交う人々は足を止め、
各々に過ごし、今もなお多様な意見と感想が寄せられています。

そもそもなぜこのエリアで社会実験が行われることになったのでしょうか。
どんなコンセプトやデザイン設計が成され、
どんな実験が行われていたのでしょうか。
実験の効果検証の結果と、これからの動向とは……？

この本「MOVE MOVE ARCHIVE BOOK」は、令和4年度に発足された
「社会実験準備事務局」（EDEN側の公共空間での実験を企画・運営する
ために集まったメンバーで構成された官民連携チーム）が、
令和5年度にこのエリアの将来ビジョンを検討するために
「将来ビジョン検討事務局」として再集結し、
実験を企画・実施・検証していく過程をアーカイブとしてまとめたものです。

MOVE MOVEとは何だったのか。
そして、青葉通仙台駅前エリアの将来をどのように描き、つくっていくのか。
この本を手にとってくださった皆さんと一緒に考えていきます。

もし、青葉通仙台駅前が、仙台の心臓だったら。

ひとが出会い、交流し、
新しい流れが生まれるかもしれない。
血が通い、ひととなりが見えてきて、
「仙台の顔」が生き生きとするかもしれない。
そんな場所を、18日間出現させます。
さぁここで、あなたは何を感じますか。

普段の青葉通仙台駅前エリア（仙台駅ペデストリアンデッキから西側）

消火栓
UniLife
MOVE
MOVE

社会実験時の青葉通仙台駅前エリア

テナント

仙台

Contents
Q&A

Q 社会実験を実施した青葉通仙台駅前エリアってどんなところ？

Q この社会実験は、まずは「青葉通をどうするか」を模索するためにやってみたという認識であっていますか？

A Chapter 01
なぜ、青葉通仙台駅前エリアで社会実験をやったの？ へ

→ p.10~

Q どんな空間で、どんなことが行われていたのか知りたいです。

A Chapter 02
MOVE MOVEはどんな実験だったの？ へ

→ p.14~

Q 社会実験の調査と効果検証はどのように行われたのでしょうか？

A Chapter 03
MOVE MOVEをやってどんなことがわかったの？効果検証データから読み解く へ

→ p.22~

Q 今回の社会実験を通じて、どのような空間が必要だと感じましたか？

A Chapter 03
MOVE MOVEをやってどんなことがわかったの？意見交換会で深掘りする へ

→ p.28~

Q 今回の社会実験は誰が実施していたのですか？運営体制が知りたいです。

A Chapter 04
MOVE MOVEができるまで組織図、プロジェクトのタイムライン へ

→ p.34~

Q 交通の影響や効果検証など、
今ひとつ何が明らかになったのかがわかりにくいです....。

A **Chapter 04**
MOVE MOVEができるまで
クロストーク1「なぜ、MOVE MOVEをやったの?」へ

→ p.37~

Q MOVE MOVEのネーミングやロゴを
どうやって決めたのか知りたい!

Q テレビやSNSを観ていて、社会実験ではなく
イベントを告知しているように感じました。
どのような狙いで広報を行ったのですか?

A **Chapter 04**
MOVE MOVEができるまで
クロストーク2「どうして、MOVE MOVEなの?」へ

→ p.41~

Q 実験のコンテンツの内容や実施時間帯は
どのように決めたのですか?

Q 実験期間中のたき火が印象的でした。
どうやって許可を取ったのですか?

A **Chapter 04**
MOVE MOVEができるまで
クロストーク3「MOVE MOVEどんなことをやったの?」へ

→ p.45~

Q 大規模な実験だったので、賛否さまざまな声が
寄せられたのでは?沿道関係者の声も気になります。

A **Chapter 05**
青葉通仙台駅前エリアへの想い へ

→ p.48~

Chapter 01

なぜ、青葉通仙台駅前エリアで社会実験をやったの？

社会実験MOVE MOVEが行われた「青葉通仙台駅前エリア」とは、現状どんなエリアなのか？社会実験実施に至るまでどのような動きがあったのか？ここでは、社会実験に至るまでの背景と動きについて見ていきます。

1.「青葉通仙台駅前エリア」ってどんなエリア？

青葉通のうち、EDENと旧さくら野百貨店に挟まれたエリアのことです。

現状1 若い世代の減少が危惧される

現在の仙台駅周辺は、県内及び東北各県の若い世代が多く集まるエリアです。しかし、宮城県を除く東北各県の年少人口増減率は全国ワースト5（宮城県は18位）。今後は来訪者の減少が危惧されます。

〈10年間の年少人口減少率（2012年～2021年）〉

順位	県名	年少人口減少率	年少人口減少数
1	東京都	6.4%	+95673人
2	沖縄県	−1.4%	−3546人
3	福岡県	−2.2%	−15397人
⋮			
18	宮城県	−10.4%	−31658人
⋮			
43	山形県	−17.8%	−26216人
44	福島県	−18.1%	−47297人
45	岩手県	−18.7%	−30854人
46	青森県	−21.5%	−36435人
47	秋田県	−22.5%	−27283人

【出典】住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（総務省）より作成

現状2 「仙台の顔」として表情が見えない

写真は、上と右下が平日の午後1時頃、左下が夜7時頃の様子です。どんな人がどのように利用しているのかが見えず、「表情が見えない」エリアといえます。

2.「青葉通仙台駅前エリア」で近年はどんな動きがあったの？

平成24年（2012年）8月

「青葉通まちづくり協議会」が発足

＞青葉通まちづくり協議会って？
青葉通周辺の商店会、町内会、企業、個人などの地元関係者などで構成。青葉通に関する地域の組織化を図り、仙台市民の貴重な財産としての青葉通のまちづくりを進めることを目的としています。

平成30年（2018年）9月

青葉通まちづくり協議会から仙台駅前エリアの広場化を仙台市長に提言

＞広場化の提言って？
平成29年（2017年）7月、青葉通まちづくり協議会が、青葉通の付加価値向上のための将来像を検討しはじめました。その成果として、仙台駅前エリアの広場化を含む「青葉通まちづくりビジョン」が作成され、仙台市長に提言されました。パースは「青葉通まちづくりビジョン」のなかで示した広場空間のイメージです。

まちの玄関口として、人々の活発な交流が生まれ、賑わいと風格が感じられる、ゆとりある駅前広場空間

令和元年（2019年）7月

「せんだい都心再構築プロジェクト」など新たなまちづくりの動きが生まれる

＞せんだい都心再構築プロジェクトって？
仙台市が市民や事業者と共に都心部の機能強化を進めていくためのプロジェクト。「杜の都・仙台」という従来からの都市の個性を生かしながら、にぎわいと交流、持続的な経済活力を生み出し続けることを目的としていて、ビルの建て替え促進にとどまらず、企業立地の強化など経済活性化を図る施策を組み合わせているのが特徴です。

仙台市の将来イメージ

①多様なイノベーションが生まれ、働く場所として選ばれる都心（まち）
②国内外から人が集い交流し、楽しめる都心（まち）
③杜の都の個性が活きる都心（まち）

令和2年（2020年）3月頃〜

沿道開発の機運が高まりはじめる

＞沿道開発って？
EDENの開発、旧さくら野百貨店の再開発を想定しています。

令和3年（2021年）6月

「青葉通駅前エリアのあり方検討協議会」が発足

＞青葉通駅前エリアのあり方検討協議会って？
学識経験者、商工関係者、沿道地権者、交通事業者などで構成。青葉通まちづくり協議会では青葉通全域を考えるのに対し、こちらは主に、青葉通仙台駅前エリアを中心として、将来ビジョンなど、公共空間のあり方について官民が連携して検討を進めていくことを目的としています。

3.「青葉通駅前エリアのあり方検討協議会」ではどんな議論が行われていたの？

青葉通仙台駅前エリアの現状（p.10）を踏まえ
将来のエリアづくりに向けて3つの視点を掲げる

視点1
仙台の顔
としてのエリア

視点2
多様な活動があふれる
人中心のエリア

視点3
エリア価値向上のために
挑戦するエリア

3つの視点を踏まえ、エリアの「将来ビジョン」をつくるために
公共空間を使って実験をしよう！

では、実験で検証したいことって？

- 道路空間の利活用の効果
- まちなかへの回遊の起点となるか
- 交通への影響

3つの視点を踏まえたコンセプト・ターゲットを設定

空間デザイン、ビジュアルデザイン、コンテンツ、効果検証内容・方法を検討

令和4年（2022年）青葉通仙台駅前エリア社会実験
MOVE MOVE 実施！

4. 社会実験はなぜ、ペデストリアンデッキで行わなかったの？

図によると、仙台駅東口・PARCO本館・仙台ロフトを結ぶ大きな三角形ができています。これが、現状の仙台駅前の人の流れで、東西自由通路とペデストリアンデッキでの回遊がメインとなっています。

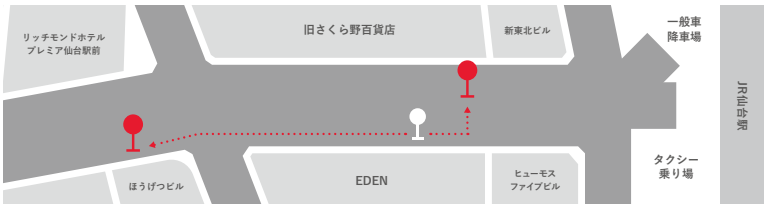
将来は、ペデストリアンデッキから降りてもらい、仙台のまちなかへ回遊していく起点としてのエリアになる必要があるのではと考え、社会実験をペデストリアンデッキを降りた公共空間で行いました。

分析期間：2019年10月　分析データ：「ジョルテ」ログデータ
分析方法：上記分析対象の移動行動に対して、各代表地点間での延べ移動人数を集計
分析対象人数：10,287人/1ヶ月
＊移動人数が1日あたり13人（401人/1ヶ月）以上の経路のみを表示
＊仙台駅方面から仙台中心部への流動のみを表示
＊代表地点間を移動していても、仙台駅・仙台駅東口・仙台駅西口のいずれも訪れていない人は分析対象外

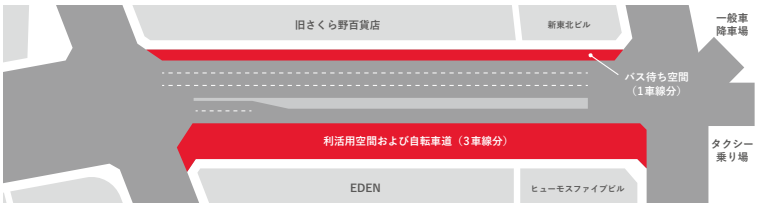
5. 社会実験では、どのような交通規制をしたの？

MOVE MOVEの利活用空間づくりのために、実験期間中は以下の交通規制とそのための周知を行いました。

交通規制１　EDEN前のバス停を旧さくら野百貨店側などに移設



交通規制２　一般車の通行規制（バス・タクシーのみ通行可）EDEN側の片側4車線のうち3車線を規制



交通規制周知

- 仙台市政だよりでの告知
- マスメディアでの告知
  （新聞、県内外ラジオでの発信 など）
- 屋外広告の掲出
  （看板・横断幕の設置、仙台駅構内やバス停広告スペースなどの活用）
- Web広告の配信
  （Google、Yahoo!、YouTubeなどのSNS）

Chapter 02

MOVE MOVE は どんな実験だったの？

将来のエリアづくりに向けて3つの視点（p.12）を掲げ、さまざまな角度から検証していくための社会実験MOVE MOVE。ここからは、実験の骨格となるコンセプトとそれを可視化するビジュアル、空間のデザイン、実験で実施したコンテンツを見ていきます。

コンセプト
Concept

青葉通仙台駅前エリアの ひととなりを見出し、 新しい流れを生む。

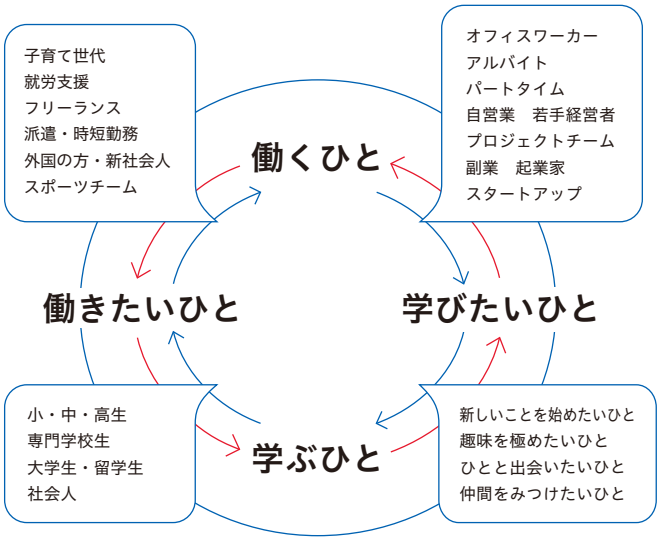
コンセプトについて

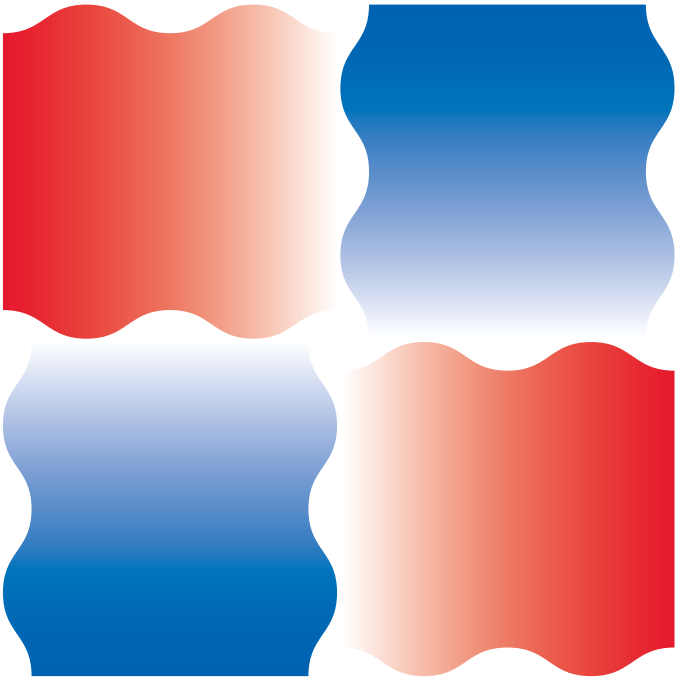
コンセプトでは、視点①「仙台の顔としてのエリア」視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」を踏まえ、エリアの「ひととなり」を見出すとしました。
通常、「ひととなり」という言葉はまちに対しては使いませんが、まちは、ひとが活動し交流することで初めて活きた場所になるのではと考え、意図してこの言葉を使いました。視点③「エリア価値向上のために挑戦するエリア」を踏まえ、現状の表情が見えないエリアにさまざまなひとが集い交流することで、新しい流れを生み出すことを目指しました。

ターゲット
Target

ターゲットについて

仙台駅前は県内外へアクセスする交通網が、ペデストリアンデッキ周辺には商業施設が集中し、近隣には大学などの教育機関も多くあります。MOVE MOVEの実験エリア付近は、通勤・通学、出張、買い物などを目的とした人の流れの中枢といえます。
MOVE MOVEでは、これらの人の流れを構成するのが「働くひと」「学ぶひと」と仮定し、潜在的なニーズを持つ「働きたいひと」「学びたいひと」の存在も想定してターゲットとしました。実験では、彼らを青葉通仙台駅前エリアに訪れるよう促し、具体的にどのような属性なのかを明らかにすると共に、実験を通してエリアに対して抱いているニーズを明らかにできるようにしました。





MOVE MOVE

青葉通仙台駅前エリア社会実験

ネーミングについて

実験のターゲットとした「働くひと・学ぶひと・働きたいひと・学びたいひと」は、青葉通の未来をつくるであろうメインプレーヤー。彼らの心が動き、新たな一歩を踏み出す勇気や成長のきっかけをつくると共に、自分の気持ちや足元を見つめる心の動き（感動 / 驚き / 気づき）が繋がり連なって、はじめは小さくとも段々大きくまちを変えていく。そんな様子を「MOVE MOVE（ムーブ ムーブ）」という言葉のリズムによって表現しました。

シンボルマークについて

多様な人々が集まり、東北各地や仙台市内外へと広がっていく青葉通仙台駅前エリアは、例えるならば「仙台の心臓」ではないかと仮定しました。シンボルマークでは、このエリアに集い行き交う人々の活動や交流、感情の動きといった「波（脈）」が、ポンプや心臓（四つの部屋）のように大きな面となり、四方へと広がっていく様子を表現。これまでの青葉通のイメージとは異なるコンセプトやキーカラーとすることで、新しいエリアの一面を探りました。

空間デザイン
space design

社会実験の利活用空間は、ペデストリアンデッキを降りた青葉通仙台駅前エリアのEDEN前。車道2車線分に加え、バス停の屋根下と歩道を入れた、長さ約80m、幅約12mの空間です。
細長い空間のため、敷地に斜めのラインを取り入れることで視線を斜め方向に向かせ、居心地の良さをつくりだすと共に、歩行者が通り抜けられる動線と来訪者が滞在して過ごせる居場所を織り交ぜた空間としました。

社会実験中はさまざまな使われ方が想定されるため、訪れる人の多様な過ごし方を受け入れることができる空間を目指しました。敷地の地面には、2色の人工芝を斜めに配置し、空間としての一体感を持たせ、歩行者が自然と入り込みやすいようにしました。
利活用空間と自転車道の境界には、断面がH型の鋼材に合板を合わせたものを設置。子どもが自転車道に飛び出すことを防ぐ仕切りとしてだけではなく、腰掛けて休憩ができるベンチの役割も果たしています。
自転車道、バスとタクシーの通る車道の境界には、メッシュ素材のパーテーションを設置し、空間の抜けを演出しながらも車からの目線を遮るものとしました。

1
2 | 3

1／ストリートピアノの演奏に耳を傾ける人々
2／多くの親子でにぎわった「NPO法人冒険あそび場」による『あ・そ・び・ば 仙台』
3／平日朝7時に開催されたヨガ教室

4／たき火を通して対話の場を創出した「仙台たき火ティー」大石さん　5／南三陸町ブランド杉材のジャングルジムで遊ぶ子ども　6／ユニバーサルスポーツ・モルックを楽しむ親子　7／散歩コースとして訪れる近所の保育園の子どもたち

1
2 | 3

1／気軽に政治について会話する場「コーヒー・ハウス」　2／大学生が企画し運営したランウェイを歩く人々　3／上・音の実験をしたスピーカー / 下・アットアロマ×宮城学院女子大学チーム「parfum」による仙台をイメージした香りの取り組み

4／演舞の合間に利活用空間で休憩するみちのくYOSAKOIまつり参加者　5／屋内スペースに設置した授乳室　6／即興ダンスの輪が広がる様子
7／平日夜7時に開催された電子工作ワークショップ

Chapter 03

MOVE MOVEをやって どんなことがわかったの？

効果検証データから読み解く

MOVE MOVEでは、3つの視点を踏まえたコンセプトに基づいた利活用空間やコンテンツが、訪れる人やエリアに対してどのような影響があるのか様々な効果検証が行われました。
ここからは、主な効果検証データから、定量的に明らかになったことを見ていきます。

効果検証の概要

1. 効果検証の目的

1. 空間の利活用が**まちや来訪者に対しどのような効果・影響があるか？**
2. 空間の利活用によって**仙台のまちなかへの回遊性が生まれるか？**
3. 空間の利活用によって**交通面にどのような影響を与えるか？**

➡ **これらの検証結果を将来ビジョンづくりに生かす**

2. 検証するポイント

コンセプト、3つの視点

視点1 仙台の顔としてのエリア
→仙台の顔とは？
「青葉通仙台駅前らしさ」を浮かび上がらせる

視点2 多様な活動があふれる人中心のエリア
→「多様な活動」とは？
活動の内容、それらを生み出していく人の属性を明らかにする

視点3 エリア価値向上のために挑戦するエリア
→ エリアの価値とは？
訪れた人の印象、沿道店舗との連携による効果を明らかにする

ターゲット

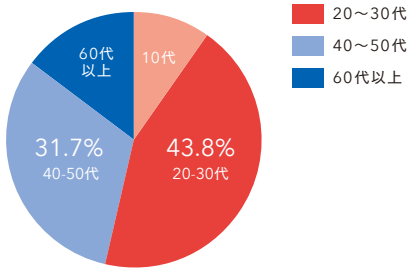
・働くひと　・学ぶひと　・働きたいひと　・学びたいひと
の **振る舞い、姿勢、活動、ニーズは？**

3. 具体的な調査内容

・アンケート調査
・アクティビティ調査
・居心地調査
・ヒアリング調査（来訪者、コンテンツ出店者、沿道店舗関係者）
・交通量調査
・関連ハッシュタグ投稿の取得
（# 青葉通仙台駅前らしさ #movemove ）など

〈アンケート調査の回答者〉

世代ごとの回答者数

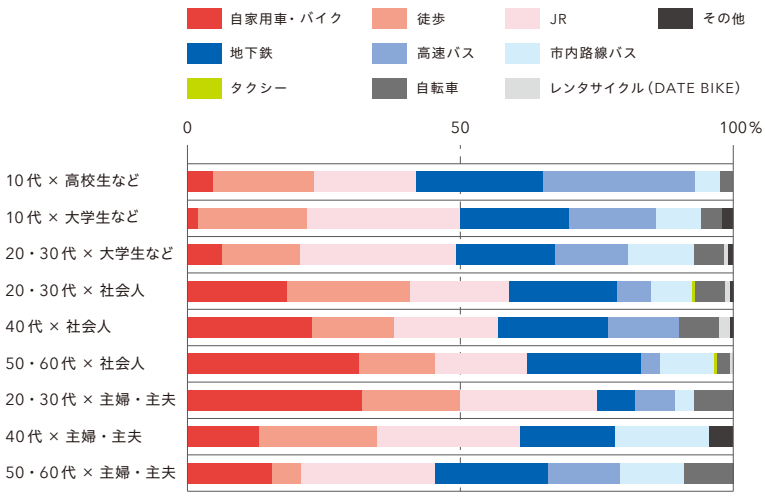


＊10代～30代が半数以上を占める

普段の青葉通仙台駅前エリアへの来訪手段は？

普段の青葉通仙台駅前エリアの来訪手段をアンケート調査しました。どの属性でも7割以上が「徒歩・公共交通機関・自転車」で、特に10～30代の学生のほとんどがこの手段で訪れています。「自家用車・バイク」は、50～60代の社会人と20～30代の主婦・主夫で割合の多い来訪手段となっています。

〈普段の来訪手段〉



＊「高校生など」には高専生が含まれます。
＊「大学生など」には大学院生、専門学生が含まれます。
＊「社会人」には会社員、公務員、自営業などが含まれます。

交通にはどのような影響があった？

MOVE MOVEによって、エリアの周辺交通にどのような影響が出るか調査しました。交通規制に伴う車の迂回による仙台駅付近と広瀬通での交通混雑（影響①）や規制区域への誤侵入（影響②）、バス停の移設による誤乗車（影響③）、バス停の集約によるバス待ちのスペース不足（影響④）などの影響が発生しました。また、アンケート調査では、自家用車で仙台駅一般車降車場に訪れた人の約6割、市内中心部に訪れた人の約4割が「影響があった」と回答、「バス停の移設場所が分かりにくい」といった声も寄せられました。

エリアの沿道店舗への効果は？

視点③「エリア価値向上のために挑戦するエリア」を踏まえ、実験中、青葉通仙台駅前エリアの沿道店舗にはどのような影響があったのか、沿道事業者店舗を対象にヒアリングを行い、3店舗から以下の声が聞かれました。

実験中は客層の変化により客数増加、売上も向上

平日・休日を問わず、若い世代と家族連れが増加しました。また、実験前と比較し、客数は30%、売上は20～30%向上しました。交通混雑による客数の減少は見られませんでした。

利活用空間を設けることのメリット・デメリット

メリット

店舗前の雰囲気が良くなり、人目に付きやすくなる、新たな客層を含めエリアに来訪者が増え、沿道店舗にとって売上増加のチャンスになる。

デメリット

イベントなどを仕掛けることでそちらに注目が集まってしまい、店舗が目立たなくなる懸念あり。

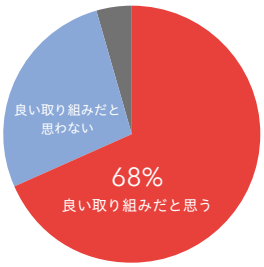
MOVE MOVEに対する評価は？

実験に対する評価をアンケート調査しました。回答した人の5割以上は仙台駅前に多く来訪している若い世代（10代〜30代）。その8割以上が「良い取り組みだと思う」と回答しました。年齢が上がるにつれその割合が下がり、40代以上は6割となっています。また、市内の人は約6割、市外の人は約8割が評価しています。

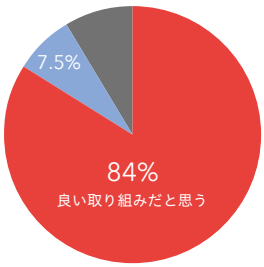
良い取り組みだと思う　良い取り組みだと思わない　どちらでもない

〈居住地ごとの社会実験への印象〉

仙台市内居住
(N=894)

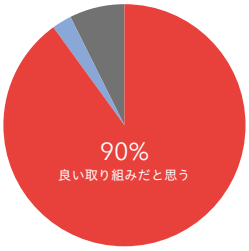


仙台市外居住
(N=345)

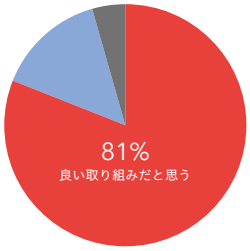


〈年代ごとの社会実験への印象〉

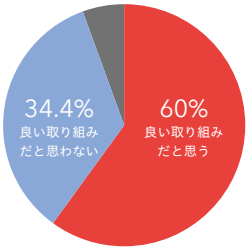
10代（N=122）



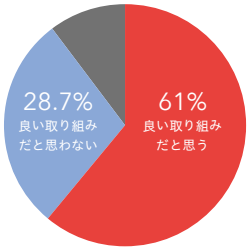
20〜30代（N=542）



40〜50代（N=392）



60代以上（N=181）



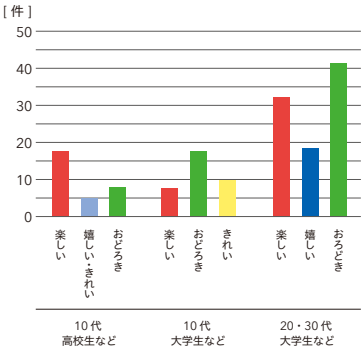
MOVE MOVEの第一印象は？

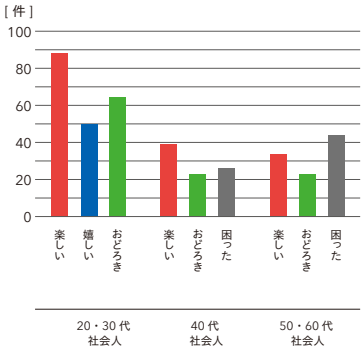
視点①「仙台の顔としてのエリア」を踏まえ、実験来訪時の第一印象をアンケート調査しました。若い世代をはじめ幅広い世代の人が「楽しい・嬉しい・おどろき」といった、通常のエリアからの変化や交流できたことに対する印象を挙げています。一方、40代以上の社会人は「困った」といった交通混雑に対する印象を挙げています。

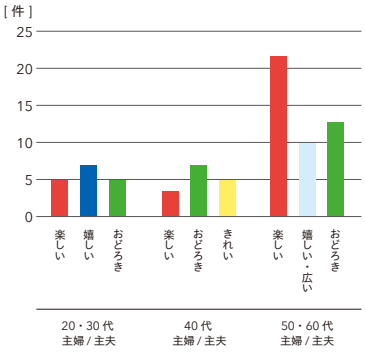
楽しい　嬉しい
嬉しい・きれい　嬉しい・広い
おどろき　きれい
困った

＊「大学生など」には大学院生、専門学生が含まれます。
＊「高校生など」には高専生が含まれます。
＊「社会人」には会社員、公務員、自営業などが含まれます。

〈来訪時の第一印象（上位3つ）〉

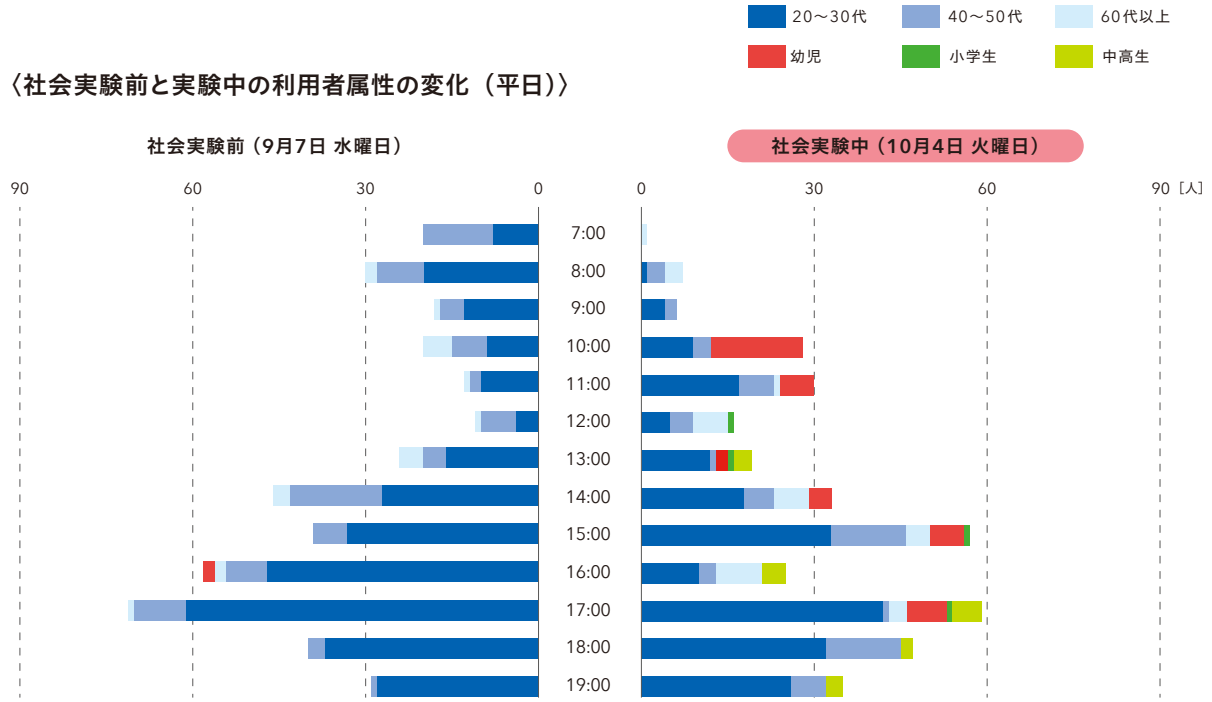


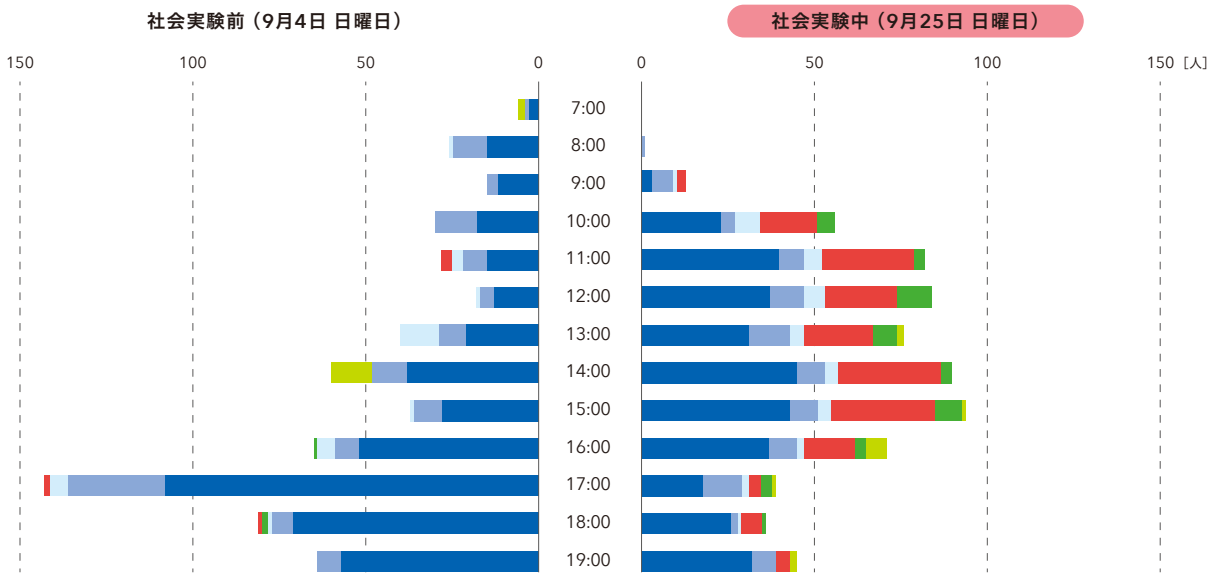




MOVE MOVEに訪れた人の属性は？

視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」を踏まえ、実験前と実験中の朝7時～夜7時までの時間別における利用者属性を調査しました。実験前と実験中で、どの時間帯も最も多い属性は20～30代、次いで40～50代ですが、実験中の日中に幼児や小学生が増えている時間帯があります。平日の午前中は近隣の保育園児がお散歩コースとして、午後はお迎え後に保護者と遊びに訪れたこと、休日は子どもが遊べるコンテンツを行ったことが起因しています。

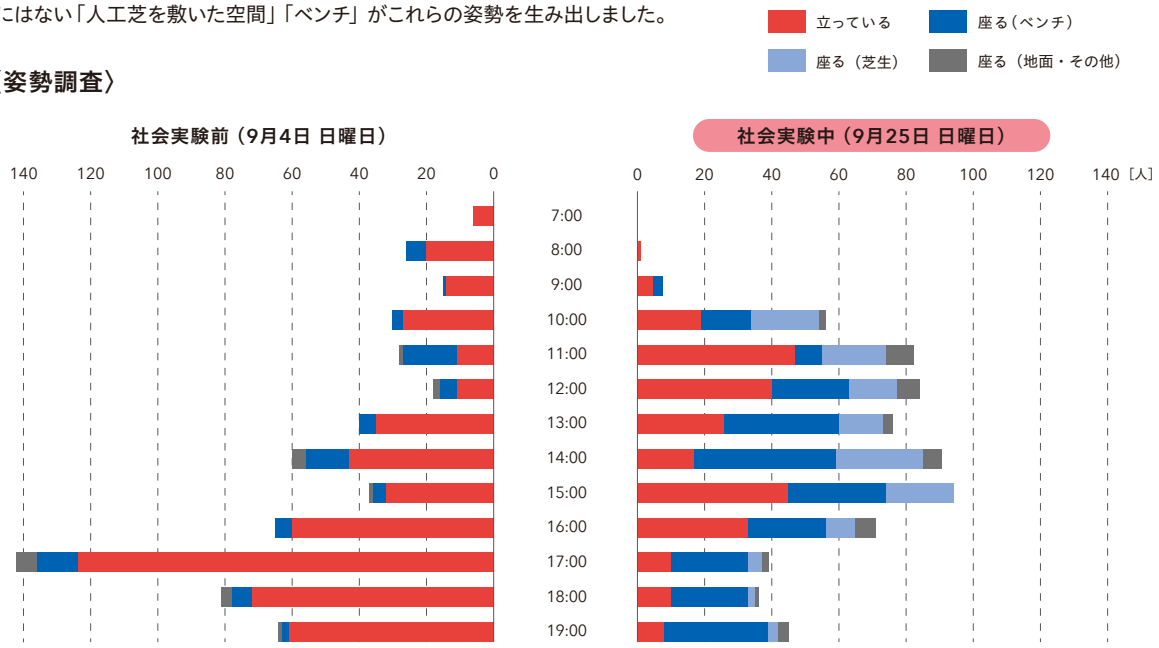




実験前と実験中の活動の変化は？

視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」を踏まえ、実験前と実験中でエリアで過ごす人の姿勢について調査を行いました。実験前は「立っている」が大半を占めるのに対し、実験中は「座る」が増加。通常のエリアにはない「人工芝を敷いた空間」「ベンチ」がこれらの姿勢を生み出しました。

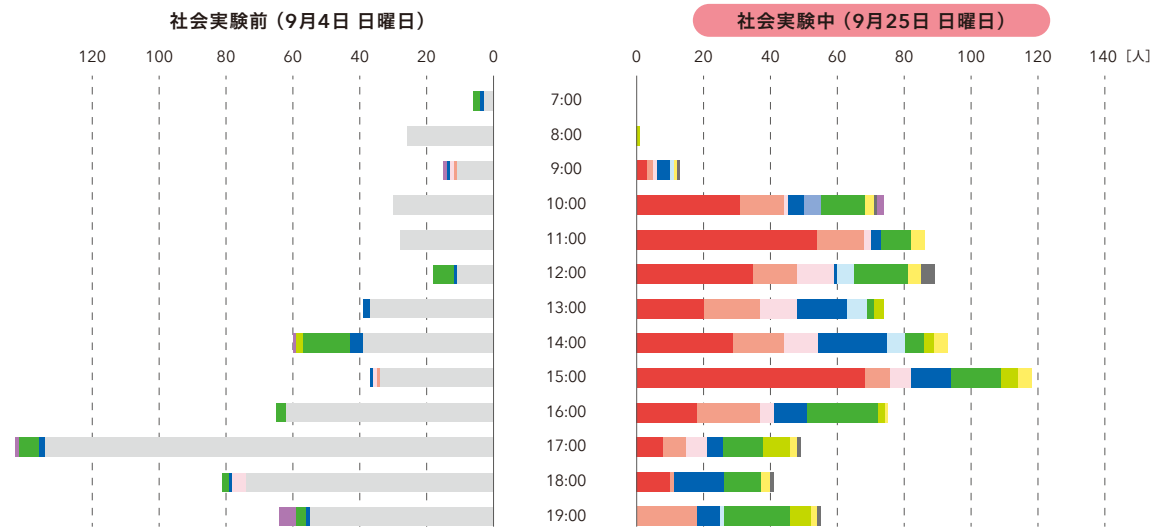
〈姿勢調査〉



実験中にどんな活動が生まれていた？

視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」を踏まえ、実験前と実験中でどんな活動の変化があるかアクティビティ調査を行いました。実験前は、「バス待ち」が大半を占めるのに対し、実験中は「遊び」「会話・電話」、それらを「眺める」「待ち合わせ」「休息・滞在」といった活動が生まれました。

〈アクティビティ調査〉

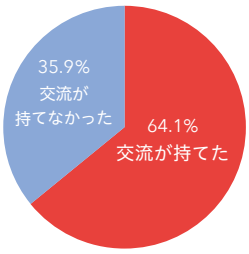


活動による交流は生まれていた？

視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」を踏まえ、実験中コンテンツに参加した人を対象に、交流の有無をアンケート調査しました。コンテンツに参加していた人の約6割は「交流が生まれていた」ことを実感しています。最も交流を実感されていたコンテンツの「ストリートピアノ」では、「演奏する」だけではなく、同じ空間で「聞く」「拍手する」ことによって交流を実感した人が多く見られました。

〈コンテンツ参加による交流の機会の有無（コンテンツ参加者）〉

コンテンツ参加者
（N=423）



交流が持てたコンテンツ

ストリートピアノ	51	親子同士の交流	5	縁日	2
焚き火	25	ピクニックパーク	5	三味線演奏	2
遊び場	15	音楽	4	アスレチック	2
ボッチャ体験	9	MOVE MOVE RADIO	3	ファッションショー	1
スタッフとの会話	9	朝ヨガ	3	ボードゲーム	1
南三陸杉ジャングルジム	8	コマまわし	3	畳ワークショップ	1
社会人交流イベント	8	よさこいイベント	2	農産物の生産者と交流	1
ライブマジック	6	乗馬体験	2	愛犬家同士の交流	1
				防災パンワークショップ	1

空間変化と活動による交流で居心地への変化はあった？

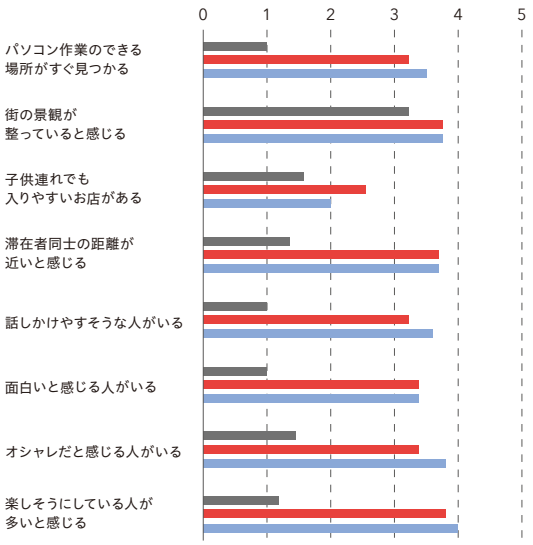
休日の昼間の居心地の変化を、「快適性」と「ハード環境」の2つに分けて調査しました。実験期間が後半になるにつれ、居心地が向上しています。快適性では「話しかけやすそう、面白い、オシャレ、楽しそう」といった滞在している人に対する好印象が挙げられ、ハード環境では「気軽に座れる段差、自由に使える机」などで居心地の向上が見られました。

社会実験前
社会実験中　9月
社会実験中 10月

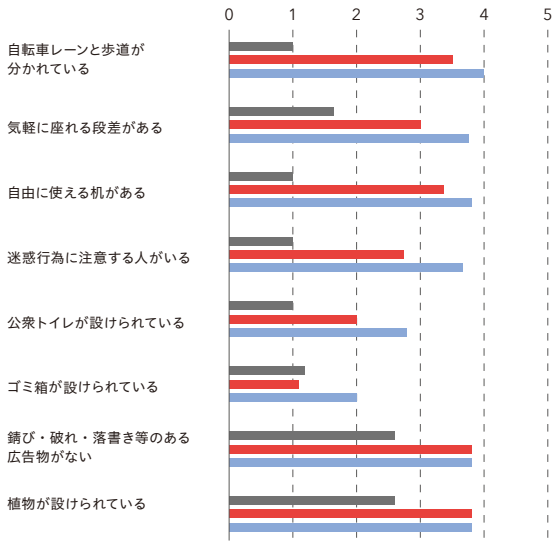
＊実験中と実験前で変化の少なかった項目は未掲載
＊評価は 5 点を満点として集計

〈休日昼間における居心地調査〉

「快適性」に関する評価



「ハード環境」に関する評価



Chapter 03
MOVE MOVEをやってどんなことがわかったの？
意見交換会で深掘りする

前ページでは、MOVE MOVEでエリアに訪れた人々がどのように過ごすのか、利活用空間の使われ方とその効果を様々な効果検証データから読み解きました。これらのデータをもとに、青葉通仙台駅前エリアの将来ビジョンを検討するために発足された「将来ビジョン検討事務局」では、MOVE MOVEの会場にいて感じたこと、聞こえてきた感想も併せて振り返りながら、意見交換会を行いました。

意見交換会実施概要

令和５年 ８月29日　「属性別アンケート」を元に学生の視点で意見交換
令和５年 ９月 ８日　「属性別アンケート」を元に社会人の視点で意見交換
令和５年 ９月22日　「属性別アンケート」を元に主婦・主夫の視点で意見交換
令和５年11月15日　「アクティビティ調査結果」を元に空間のニーズについて意見交換
令和５年12月５日　「居心地調査結果」を元に空間の快適性およびハード環境について意見交換

01 学生の声 Student

10代の学生はMOVE MOVEをこうみていました

ストリートピアノを弾けた聴けた、他の楽器とのセッションができた

放課後の遊び場として利用した「高校内で噂を聞いて来ました」

デートができる良い雰囲気「駅が近いので彼女と終電まで一緒にいられました」

楽しい「友達と話したり遊んだりできました」

10代の学生が青葉通仙台駅前エリアに感じていること・望んでいること

お金を遣わなくても居られる場所を探している

駅前で買ってきたお菓子やファーストフードを食べられる場所を探している

駅前からアーケードまで**目的もなくそぞろ歩く**

事務局コメント

中高生が友達と「遊ぶ」＝仙台駅前からアーケードまでを「目的もなくそぞろ歩く」も含まれるみたい。まちへの回遊の合間に「ひと休みできる場所」を求めているのかも。

20代の学生はMOVE MOVEをこうみていました

普段とまちの様子が違った

空間の写真を撮ってSNS用にアップした

ふらっと立ち寄った

空間デザインが変わった驚き

20代の学生が青葉通仙台駅前エリアに感じていること・望んでいること

交流できるイベントを実施してほしい

社会実験のような空間を継続してほしい

暑い日、日差しが強い日に**日陰になる場所がほしい**

くつろげる場所がほしい

02 社会人の声 Society

10〜30代の社会人は MOVE MOVEをこうみていました

楽しい空間

人々の交流の変化による**新鮮さ**

車の渋滞を感じた

ベビールームが少ない
「おむつ替えスペースがあったのは嬉しかったけど…」

10〜30代の社会人が青葉通仙台駅前エリアに感じていること・望んでいること

親子に優しい駅前空間
「子連れだと早く歩けといった視線を感じます…」
「子連れだと公共交通機関に乗りづらい」

子どもだけではなく
親子で楽しめる場所・お店
「居酒屋じゃないところが良いな」
「離乳食を食べさせたい」

気分転換になる場所がほしい

子どもは大好きだけど、
親子連ればかりは居づらい

ゆっくりしているところに
声をかけられたくない

40〜60代の社会人は MOVE MOVEをこうみていました

新しい体験があった
「ダンス企画に誘われて参加してみました」

交通渋滞で時間に遅れたことに対する困惑、苦情

人が密集していた

日常からの変化に対する
楽しみ、一方で戸惑い

40〜60代の社会人が青葉通仙台駅前エリアに感じていること・望んでいること

ユニバーサルデザインへの配慮

円滑な交通

事務局コメント

- 子育て世代の声がたくさん聞かれました。
- 転勤で仙台に来て知り合いがいない人が繋がりを感じられたり、子どものいない人にとっては、親子だけではない多様な属性がいる空間に居場所を感じるみたい。
- 段差を知らせる音のデザインなどがあっても良さそう。

03 主婦・主夫の声 Homemaker

20〜30代の主婦・主夫は MOVE MOVEを こうみていました

子ども同士の交流があり、親はゆっくりできた

授乳室があって嬉しかったが、もっと部屋数が欲しかった

楽しい雰囲気があった

20〜30代の主婦・主夫が 青葉通仙台駅前エリアに 感じていること・望んでいること

子どもが走り回っているのを横目で見つつ、友達と話したい

40〜60代の主婦・主夫が 青葉通仙台駅前エリアに 感じていること・望んでいること

ゆっくり落ち着く場所

40〜60代の主婦・主夫は MOVE MOVEを こうみていました

通常より大きく広い空間に感じた

懐かしさを感じた「旧さくら野前の写真を観に、久しぶりに駅前に来ました」

人間観察をした

事務局コメント

主婦・主夫の人は、家族やご近所のコミュニティ以外にも他者とつながる場があるとコミュニケーションを図れて良さそう。

項目ごとの振り返り

コンセプト	○コンセプト「青葉通仙台駅前エリアのひととなりを見出し、新しい流れを生む」について、これを踏まえた利活用空間とコンテンツの実施により、エリアに通常よりも多様な属性のひとが多く訪れ、視点②「多様な活動があふれる人中心のエリア」の可能性が見い出せた。 **→視点①「仙台の顔としてのエリア」に、多様な活動・滞在・交流という「表情」が浮かび上がった**
ターゲット	○想定ターゲット「働くひと・学ぶひと・働きたいひと・学びたいひと」について、具体的には、20〜30代の学生や社会人が多く訪れた。平日午後は学生、平日夜は仕事帰りの社会人、休日日中は、通常このエリアで割合が少なかった幼児や小学生の子どもを連れた子育て世代の社会人が多く訪れた。 **→曜日や時間帯で訪れる属性とニーズが異なるため、ターゲット設定とそれに基づく空間づくりが必要**
ビジュアル・空間デザイン	○赤と青のキーカラーは、MOVE MOVEのコンセプトに基づいて採用した。 **→エリアに新しい印象を生むことができた、恒常的な空間に最適な配色は別の視点でも検討が必要** ○空間の設えを訪れた人が自由に使っていたのが良かった。 例）人工芝を敷いた場所 → 赤ちゃんがハイハイする、学生が座って休憩する ステージの段差、ジグザグの仕切り → 子ども達が遊具として使う、大人がベンチとして使う **→使い方の自由度を高める、ユニバーサルデザインへの配慮も必要**
コンテンツ	○コンセプトと想定ターゲットを踏まえた多様なコンテンツを多数実施したことで、これまで見られなかった多様な活動・滞在・交流（具体的には体験や遊び、くつろぐ、会話など）が見られた。 **→ ターゲット設定とそれに基づくコンテンツを実施することで、目的を持って訪れるひとが増え、にぎわい創出やまちなかへの回遊の可能性につながると考えられる**

まとめ！ 意見交換会を通して見えたこと

1 MOVE MOVE に訪れた、「子ども・学生・社会人・主婦 / 主夫」がこのエリアに対し、それぞれの「居心地の良いにぎわい」を求めている

Comfortable

Calm

Active

2 「居心地の良さ」には「静的な居心地」と「動的な居心地」がある

静的な居心地とは？

・受動的、安らぎ、間接交流、合流、くつろげる、休憩
・イベント・アクティビティに参加しないが、
　同じ空間にいることは楽しんでいる
・拍手や笑いで参加しているなど、緩やかに繋がっている満足感
・人の目が届いている安心感がある　例）警備員がいて管理されている
・個々の楽しさ（携帯を見ながら居心地良く過ごしているなど）
・多様な属性の人が同じ空間にいる

動的な居心地とは？

・積極的、直接交流、人を動かす仕掛け、驚き、
　アクティブな楽しさ、雰囲気がある
・会話をする、何かを一緒にするなど、
　人と人との直接的なコミュニケーション量が多い

居心地の悪さとは？

・空間に人が密集している時
・空間に余裕はあるが、心理的に居心地が悪い時
　例）親子連れが集中している時に、社会人一人など、
　　自分とは異なる属性の人が集中している時
・声をかけられたくない時、人と関わりたくない時
・イベントやアクティビティを実施すると来訪者が増え、人口密度も増え、
　静的な居心地が損なわれる
⇨**イベント・アクティビティを実施する時間帯、場所などへの配慮が必要**

ハード面の居心地の良さとは？

・目が届く広さである
・衛生面がクリアされている
　例）石、動物のふんなどがない
・空間的設えに安心感がある
　例）ベンチ（心理的にちょうど良い距離感で設置）、
　　目隠し（個々のテリトリーに踏み込みすぎない）
・公共交通機関、商業施設に隣接している

3 将来ビジョンづくりへ向けて

Fun

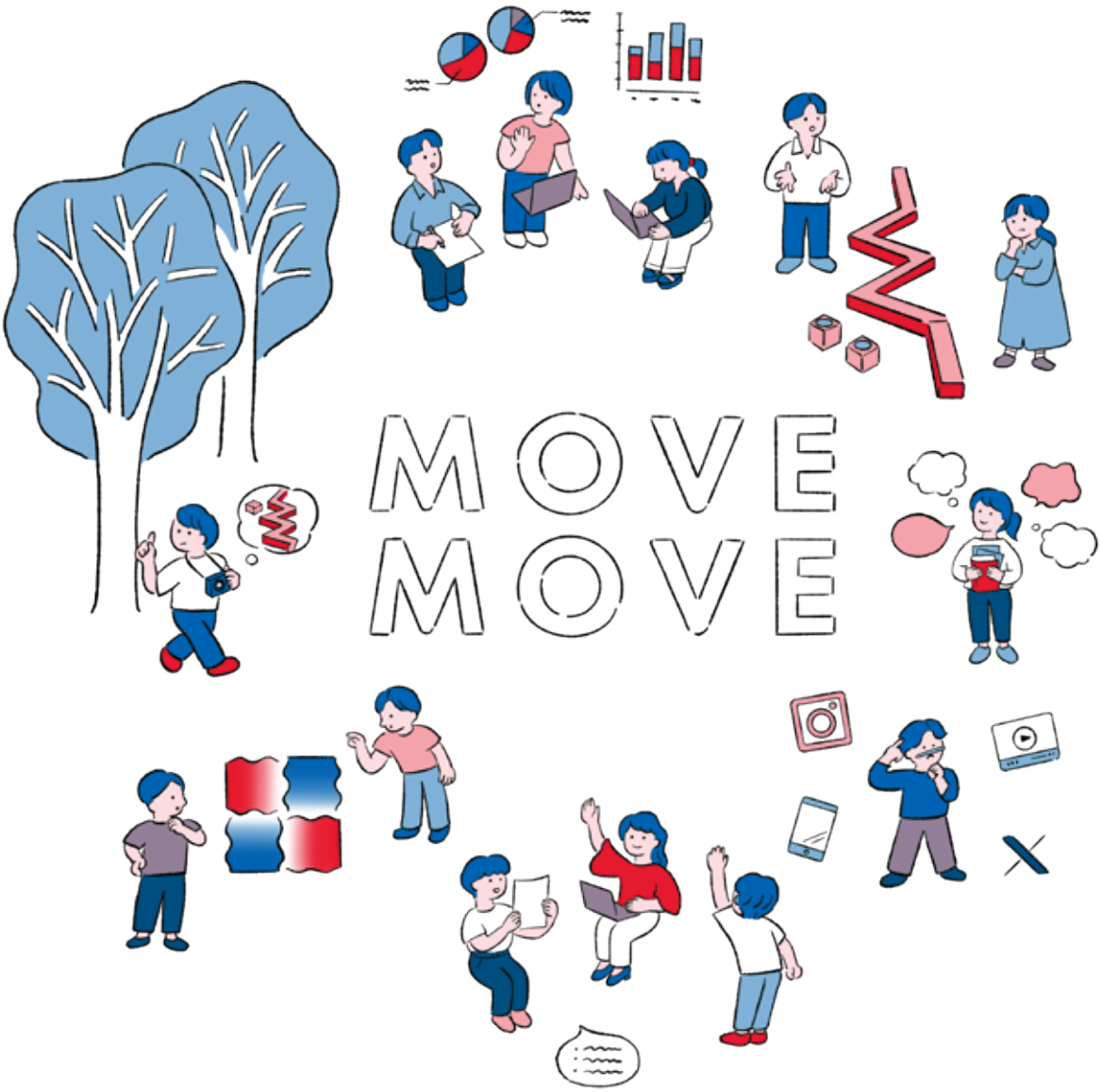
Fresh

今回の意見交換会で見えた
「居心地の良いにぎわい」を
エリア価値に必要な要素として、
将来ビジョンの検討に
取り入れていきたいと考えています。
今後は、子育て層の視点や
市外居住者の客観的な視点も取り入れながら、
沿道開発と公共空間をどう連携していくかを含め、
青葉通仙台駅前エリアの将来ビジョンを検討していきます。

Chapter 04

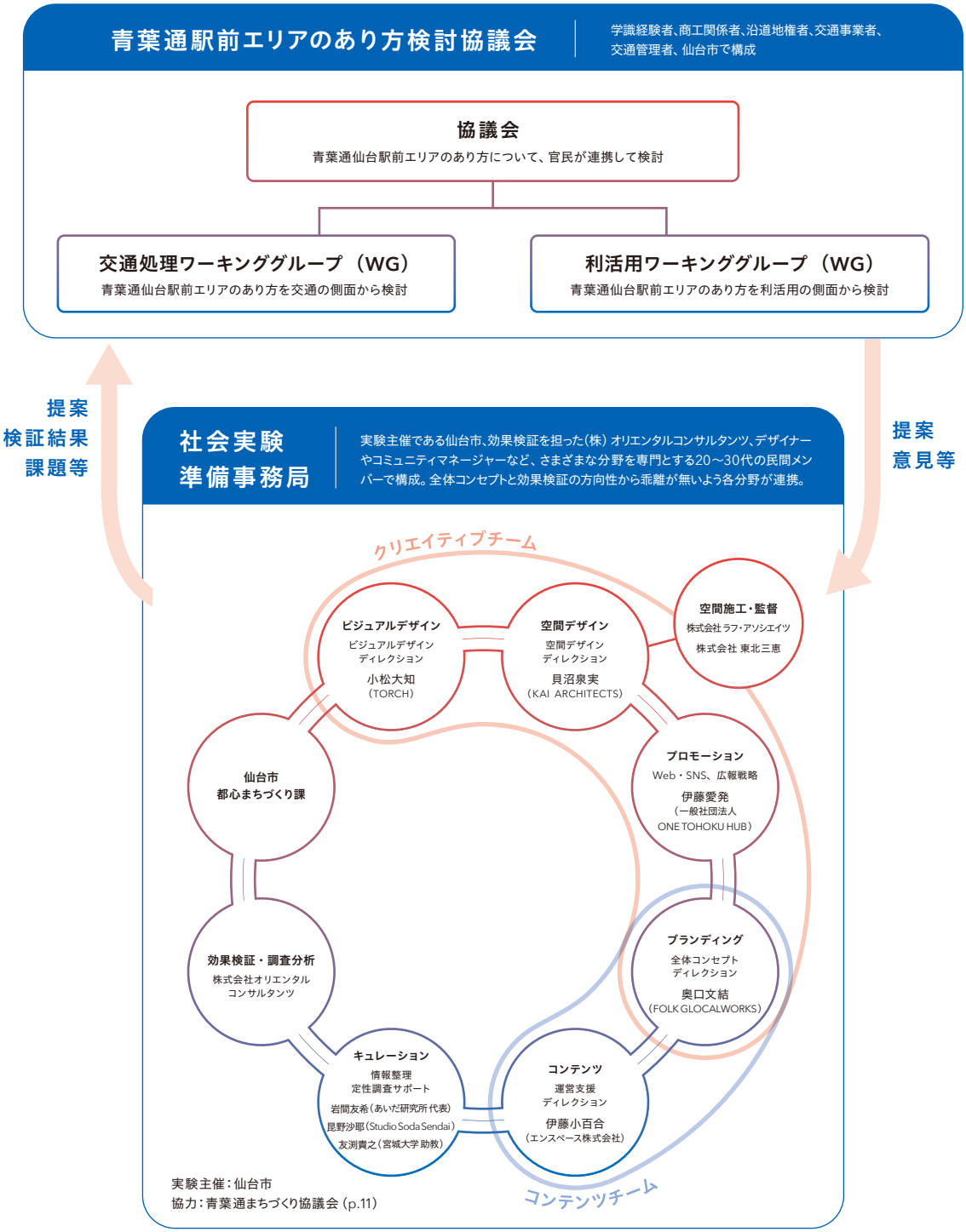
MOVE MOVEができるまで

ここからは、MOVE MOVEができるまでのプロセスを、
運営組織やタイムライン、令和5年（2023年）10月15日に実施した
トークイベントの振り返りを通して見ていきます。



組織図
Organization chart

MOVE MOVEは、「青葉通仙台駅前エリアのあり方検討協議会 」（p.11）と、効果検証、コンセプトや空間設計、コンテンツの計画といった利活用面の実務準備を行なった「社会実験準備事務局」の連携によって実施されました。



プロジェクトのタイムライン
Project Timeline

MOVE MOVEの事前準備・実施・実施後について、
関連組織の動きや事柄を時系列でまとめました。

2021 06
- 令和4年に社会実験を実施する計画を協議会に説明

11
- 車線規制形状案をWGに説明・協議
- 交通施設（バス停、タクシー乗り場）配置案をWGに説明・協議

2022 01
- 車線規制形状、交通施設配置を協議会にて決定

02
- 社会実験準備事務局の組織体制の検討開始
- 空間デザインの検討開始
- 利活用内容の検討開始
- EDENとの調整開始

03
- 第1回市民参画イベントの開催（3/27）

04
- 社会実験概要の整理

05
- 社会実験コンセプトの検討開始
- 社会実験の日程をWGに説明・協議
- 第2回市民参画イベントの開催（5/21）

06
- 社会実験準備事務局の組織体制の決定
- 社会実験コンセプトの決定
- デザインコンセプト／イメージカラーの検討開始
- コンテンツの検討開始
- 広報戦略の検討開始

07
- デザインコンセプト／イメージカラーの決定
- 社会実験ネーミングの検討開始
- ロゴデザインの検討開始
- 出展コンテンツの調整開始
- 社会実験の日程を協議会に説明
- 市HPにて社会実験概要を公開（7/21）

08
- 社会実験ネーミングの決定
- ロゴデザインの決定
- 空間デザインの決定
- 広告媒体の決定
- 第3回市民参画イベントの開催（8/27）
- 社会実験の主なコンテンツを公表（8/31）
- 市長記者会見（8/31）

09
- 広告物の決定
- 広報開始
- 出展者マップ制作
- 効果検証調査の開始
- 交通規制の開始（9/20）
- 会場設営（9/20～9/22）
- 社会実験開始（9/23）
- ラジオ生配信（9/23～10/7）

10 MOVE MOVE 開催期間
- 社会実験終了（10/10）
- 会場撤去（10/11～10/13）
- 交通規制の解除（10/13）
- 効果検証調査の終了

11
- 社会実験準備事務局全体振り返り

12
- 社会実験の効果検証結果（速報値）をWGに説明

2023 01
- 効果検証結果の最終まとめ

03
- 社会実験の効果検証結果を協議会に報告

04
- 社会実験の効果検証結果を公表（4/21）

トークイベント

MOVE MOVEとは何だったのか？

仙台市では、MOVE MOVEを実施した令和4年（2022年）、青葉通のまちづくりに対して市民の皆さんに興味関心を持ってもらうため、仙台を拠点にさまざまな分野で活動している人をゲストに迎えたトークイベントを計3回実施しました。
令和5年（2023年）10月15日には、トークイベントの4回目として「MOVE MOVEとは何だったのか？」というテーマで、さまざまな立場のゲストを聞き手に迎え、その質問に事務局メンバーが答えながらMOVE MOVEを振り返りました。
ここでは、ゲストと事務局メンバーの話を通して、改めて青葉通仙台駅前エリアのあり方について考えていきます。

クロストーク1「なぜ、MOVE MOVEをやったの?」

聞き手 / 漆田義孝さん（NPO法人メディアージ常務理事）
阿部優香さん（NPO法人メディアージ「ポリスク」メンバー）
関瞳さん（会社員）、近石さゆりさん（株式会社上條・福島都市設計事務所スタッフ）
回 答 / 颯田（仙台市）、青木（株式会社オリエンタルコンサルタンツ）、奥口（事務局）

円滑な交通と利活用空間を両立させるには?

近石　仙台駅前に面したこのエリアで実験をするにあたって、交通規制は切っても切り離せませんでしたよね。どこまで交通面に配慮されていましたか?

仙台市（颯田）　駅の真正面に続くエリアなので、アクセス性は非常に大事である一方で、利活用空間を通して「仙台の顔」の表情を考えることを両立したいと考えました。いきなり全ての道路を規制するということではありませんでしたが、規模が大きいので、バス・タクシー会社や警察と調整し、普段利用している方へ告知をして、段階的に交通規制の準備を整えていきました。将来的に、交通面をどうするかはまだまだ議論の余地があります。

実験で明らかになったこと

オリエンタルコンサルタンツ（青木）　今回の実験の目的とその結果について、改めて振り返ってみます。

効果検証の目的①「空間の利活用がまちや来訪者に対しどのような効果・影響があるか検証する」について、旧さくら野百貨店側、EDEN側共に、人の交通量が実験前より増加しました。実験前にはいなかった幼児、親子連れ、小学生、中高生などの新しい属性が増加したことも明らかになっています。また、アクティビティ調査では、ストリートピアノの演奏、焚き火を囲んだ会話、ボッチャやダンス体験など、実施したコンテンツに連動したアクティビティが増えている一方で、空間で休憩したり、パソコンを開いて仕事をしたりといった人々の滞在や、近隣の保育園の散歩で園児達が空間に訪れるなど、偶発的なアクティビティも見られました。

目的②「空間の利活用によって仙台のまちなかへの回遊性が生まれるか検証する」について、まず、ペデストリアンデッキから利活用空間を「眺めている」人が多く見られました。次に、ペデストリアンデッキから一定数降りてきた人も見受けられたので、降ろすことができる可能性としては確認できました。人を回遊させるということについては、回遊先に何があるかも重要なので、都心全体で連携していくことが必要だと考えられます。

目的③「空間の利活用によって交通面にどのような影響を与えるか検証する」について、一般車の通行規制による道路の混雑や、バス停の移設による混乱が発生していました。これらに対する意見は、交通規制が始まった直後が最も多く、規制一週間後から意見数も落ち着いていきました。規制などの変化が浸透し、状況に慣れてきたものと見られます。今後はこれらを踏まえ、交通への影響も踏まえて将来ビジョンを検討していく必要があります。

準備事務局の組織づくり

漆田　私は普段、地域のお祭りやイベント運営などを通してまちの場づくりなどを行なっているので、人のコミュニティの面白さや運営組織づくりの難しさを実感しています。

MOVE MOVEの準備事務局は、仙台で活動する30代中心の若いメンバーで構成されているのが良いなと思ったのですが、一方で、今までの仙台市ってこういうことができてなかったよなと。今後はできるようになっていくのだろうかという期待と不安を感じます。

仙台市（颯田）　今回は人材発掘や多様な意見を取り入れる観点から、従来のように行政の人員、まちづくりの専門家だけで計画して実験するのではなく、街の将来の主役である若い世代を巻き込んで計画したいと考えました。今後も同様な、組織づくりが広まったらいいなと思いますね。

事務局（奥口）　急ピッチで集められたメンバーではありましたが、行政の方が聴く耳を持ってくださる印象がありました。我々も遠慮がないメンバーというか、ダメ出しをしたり、喧喧諤諤とした議論でしたが、その中で熱意を持ってやったことで突破できたところがあるかなと思います。空気感をみんなでつくっていくことが大切ですね。

「仙台の顔」と、その表情って？

仙台市（颯田）　聞き手の皆さんに質問です。「仙台の顔」そしてその表情というと、漠然とどんなイメージを浮かべますか？

近石　「仙台の顔」と表現の意味によってイメージが異なると思います。私は表情といわれると空間のことを連想します。仙台は「杜の都」と呼ばれているので、空間にそういう表情が入ってくると良いのかなと思いました。仙台市では、賑わいをビジョンとして掲げているので、人々の活動を含む表情に関心があるのかなと思いましたが、いかがですか？

仙台市（颯田）　実験では、時間帯ごとに幅広い世代のいろいろな表情が見られました。個人的には、今後このエリアに、思いおもいに過ごす姿が生まれるといいなと思いました。偶発的な活動が生まれる寛容さ。それが新しい「仙台の顔」らしさになると良いなと。

関　現在は東京で暮らしているのですが、大学時代を仙台で過ごしました。当時、街で何を楽しんでいたのだろうと振り返ると「お店に入り、買い物などをして消費する」と目的を持って楽しんでいたように思います。仙台の顔、その表情というと、「ゆとり」「余裕」があるといいなと思いました。

子育て世代からすると、今3歳の娘がいるんですが、一緒に歩くのって疲れるんですよ（笑）。体力的にも疲れるし気も張る。そんななかで、用途があらかじめ決まっている休憩スペースのようなものではなくて、人が使い方を自由に考えられる余裕がある場所があるといいですよね。「ちょっと子どもを遊ばせようかな」「お話していこうかな」「缶ビール一杯やっていこうかな」とか。そういう場所があると精神的な余裕にもつながりますし、子育て世代にとっても過ごしやすい街になると思います。

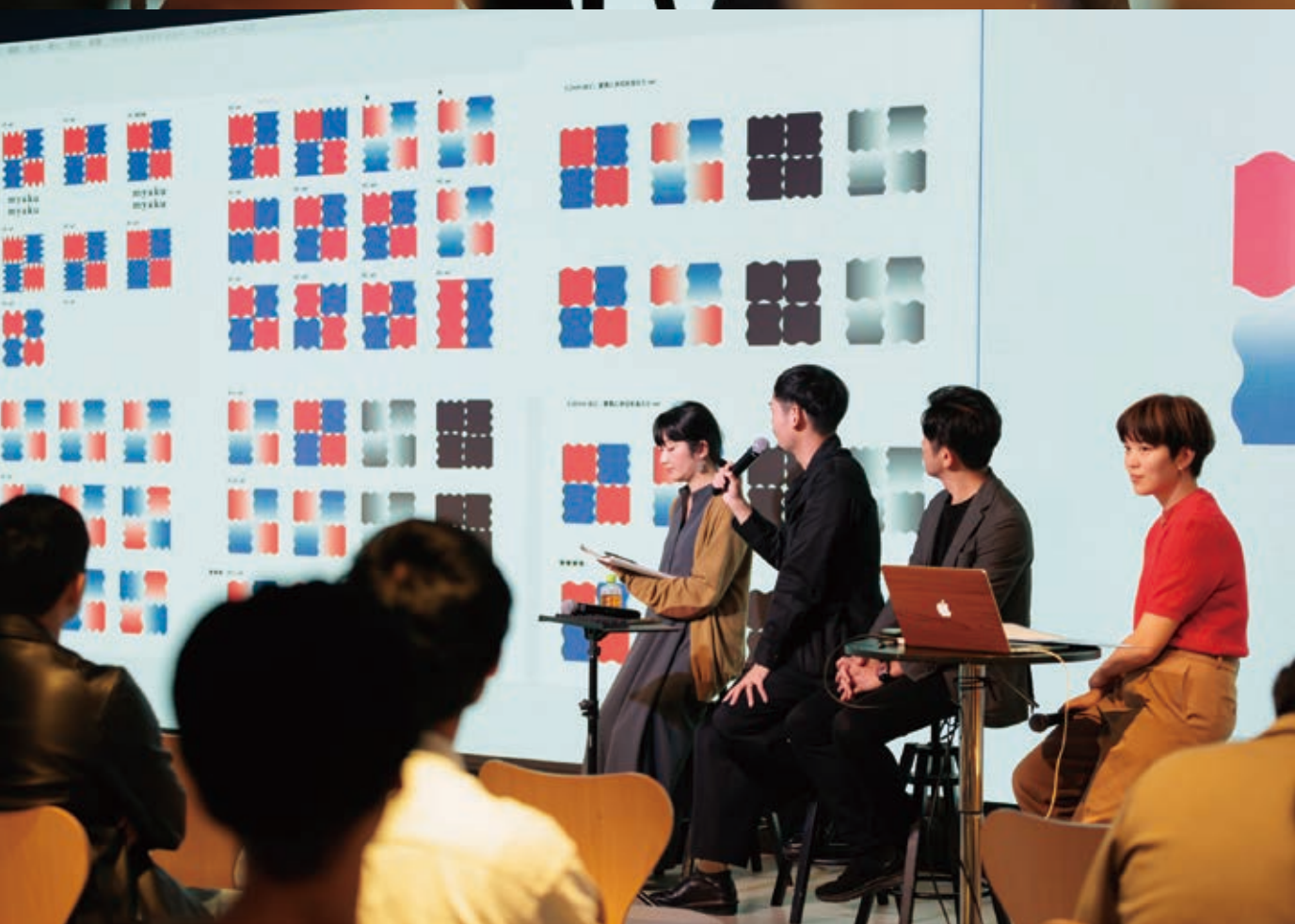
阿部　「仙台の表情」と聞かれ、仙台に暮らしているのに仙台に対するイメージを具体的に持っていないなと気付きました。仙台駅ではよく、ペデストリアンデッキを待ち合わせ場所にされますが、人も多いし、相手を見つけにくいですよね。このエリアに人を待てる空間があったら、ゆったりした気持ちになるんじゃないかな。幅広い年代の人がゆったり過ごせる街になるといいなと思いました。

漆田　結論、「目的なく市民が集まれる空間」なのでしょうか。誰もが自由にやりたいことができる空間があれば、仙台市民がやりたいことが見えてきて、そうして初めて「仙台の顔」はこれ、と自信を持って言えるようになるのかもしれません。

広瀬通交差点
マーブルロード
おおまち
交差点

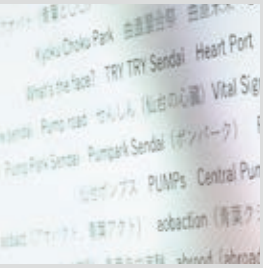
LABI
SENDAI
MOVE
MOVE

MOVE
MOVE
HALLOWEEN



クロストーク2「どうして、MOVE MOVEなの？」

聞き手 / 友渕貴之さん（宮城大学 助教）、
及川和怜さん（宮城大学事業構想学群4年）、相澤佑斗さん（宮城大学事業構想学群4年）
回 答 / 事務局・貝沼（空間デザイン）、小松（ビジュアルデザイン）、伊藤（プロモーション）
奥口（ブランディング）



コンセプトで実験の骨格をつくる

事務局（奥口）　2022年4月末、実験開催まであと5カ月余りという時期でしたが、中身も含め、ほとんど何も決まっていない状態でした。実験の目的はありましたが、目的を達成するためには、実験の利活用空間をどのように、誰向けに設定するのかを決めなくてはなりません。その軸がぶれないように、実験の方向性を決める骨格として実験全体のコンセプトを作りました。それが「青葉通仙台駅前エリアのひととなりを見出し、新しい流れを生む」です。そこから、全体のコンセプトを可視化するビジュアルデザインを決め、ロゴやネーミングに落とし込んでいきました。

「社会実験にロゴやネーミングって必要なの？」という声もありますが、このエリアに人が足を運び新しい流れを作るためにどうしたら良いかを考えたところ、普段とは異なる空間の色使いや印象的なロゴやネーミングがあれば、興味や親しみを持ち、足を運んでもらえるきっかけになるのではと考えました。

ビジュアルデザインのプロセス

事務局（小松）　ビジュアルデザインは、全体コンセプトをより具体的なデザインの視点で翻訳し「仙台の心臓」としました。将来ビジョンを検討するための視点①では、青葉通仙台駅前を「仙台の顔」としていますが、この場所は青葉区中央一丁目と仙台の中心地で、高速バスや地下鉄路線の交わる場所でもあるため、「顔よりも心臓なのでは？」という問いからきています。「仙台の心臓」から、生活や歴史などの「静」と人の交流などの「動」が交差し合い、活気が生まれるイメージでロゴマークなどのデザインを考えていきました。キーカラーには「心臓」を連想する色として、赤と青を採用しました。

及川　実験会場に来ると、赤と青がパッと目に入ってきて印象的で、ロゴに使われている書体も見やすかったです。これらはどのように決めていったのですか？

事務局（小松）　青葉通仙台駅前で赤と青をメインに使うのに対し、事務局内でも様々な声が上がりました。合意形成を得るために、実際にこのエリアにどんな色が使われているのか観察すると、舗装のブロックやベンチなどで赤の色合いが結構使われていたので、赤はケヤキ並木の緑とも相性がいいのではないかと想定しました。また、公共空間なので、視力や色覚に障がいのある方にも、視認性が保たれるような色使いや書体を検討しました。

事務局（奥口）　実験のネーミングも決めました。本当にたくさんの案を出しましたね。

事務局（小松）　そうですね。どうしたら馴染みの薄い「社会実験」により多くの方が足を運んでもらえるのかを考えた時に、ネーミングやロゴを作ることで、敷居を下げ、親しみや興味を持ってもらえれば、足を運ぶきっかけの一つになるのではと考えました。

事務局（奥口）　コンセプトを踏まえ、議論を重ねた上で「myaku myaku（みゃくみゃく）」というネーミングに決まったのですが、奇しくも、大阪万博のキャラクターの名前と被っ

てしまうという事態に！事務局内でも騒然となりましたが（笑）、最終的に「MOVE MOVE」に落ち着きました。

ネーミング・色から想起されるエリアイメージ

友渕　MOVE MOVEというネーミングの実験なので、単に通行量を増やすということだけが狙いではないですよね？仙台という場所自体を盛り上げていくエリアだと勝手に想像していたんですが、実際はどうでしたか？

事務局（小松）　人を動かすモチベーション、原動力、熱量みたいなものを、このエリアに呼び起こしたいなとは思っていました。

事務局（奥口）　このエリアでは、仙台市さんがエリアの関係者の皆さんと何度も協議を重ねてこられました。その上で、今回の実験は新しい編成のチームで「動く」。まずはこの「動く」ところから始めよう、シンプルな言葉で表して「MOVE」、そしてそれを2回繰り返すことで親しみを生み出し、浸透させていくという狙いはありました。

友渕　敢えて刺激的な色とネーミングにするのは合っていたなと思います。感覚的に「ここはこういう風に使う場所なんだ」と察知しやすいのはすごく重要。説明されなくてもわかる、挑戦しても良いんだと思う雰囲気が大事ですね。

エリアの可能性を探る空間設計

事務局（貝沼）　実験の空間は、青葉通ってどんな場所なんだろう？ということを調べたり、実際に敷地を観察しながら何度も巡り計画していきました。この場所で、どういう人がどのように過ごすのだろうか。ただ滞在するかもしれないし、日によってはイベントがあるかもしれない。将来の青葉通の可能性を探る実験のためのデザインとして幅を持たせたいなと思いました。

近年の仙台駅周辺の開発で、仙台駅付近で色々なことが完結するような流れになっている傾向を仙台市さんから伺っていました。改めて、街中に人を回遊させるためには、このペデストリアンデッキを降りてもらう必要があります。ペデストリアンデッキを降りて少し滞在し、また街に流れていってもらえる空間づくりを目指しました。道路上の空間からは仙台駅の駅舎が見えて駅前であることを感じられるように、さらに、高速バスに乗って座席に座った時ぐらいの高さも取り入れたいと思って、段差を設けて高さのある設えも造り、今後の場所のあり方の可能性を探りました。

相澤　現状の仙台駅前から街中へ歩いていくには距離が長く、親子連れは来づらいと思うんですが、こういう場所があって休憩できるのであれば来やすくなる。そういう点で、良い空間デザインだったのではないかなと思いました。

実験を「プロモーションする」ことの効果

事務局（伊藤）　MOVE MOVEに伴い、実験に伴う交通規制で混乱が起きないように、事前に周知するための交通広告、コンテンツを知ってもらい、より多くの方の声や意見を拾うため、情報発信としてインフルエンサーの方々とのタイアップを行いました。加えて、PRとして、テレビや新聞などのメディアにニュースとして多数取り上げていただくことで、普段このエリアを使う方はもちろん、市内外の方にエリアへの関心を寄せていただくことができました。プロモーションは情報の発信量と方法ありきと思われがちですが、やはり中身次第で、どんなに情報発信をしても、そのもの自体に魅力がなければ人の心

に響きません。宮城県内でも各地で社会実験が実施されているなか、MOVE MOVEは実験当初から情報が拡散され、話題を呼んでいる印象を受けました。県外からの注目度や評価も高く、実験自体がパワーを持っていたのかなと嬉しく受け止めています。

デザインから見えてきた「仙台の顔」

友渕　今回、学生達と居心地調査をするなかで印象的だったのが、いろいろな方が「このエリアでお金を遣わずにゆっくり過ごせる場所が欲しい」ということを言っているんですね。そういうニーズが浮かび上がってきているということは、仙台駅付近のホスピタリティやおもてなしを考える必要があるのかなと思います。デザインされた方々は、実験をしてどういう気づきがありましたか？

事務局（貝沼）　これからエリアの沿道が開発されていくタイミングで、青葉通を通りとして大きく捉えた時に、どのような場所になっていくと良いかを考えていないと、個々の収益性の観点で街が出来ていくと思います。今回、実験をしてみて、「お金を遣わずに滞在できる場所」が駅前にあることの意味と有難さを感じました。成り立たせるためには工夫が必要ですが。

事務局（小松）　街の豊かさとは何かを考え直さなければいけない時期なのかなと思いますね。安心・安全・住みやすい街、尚且つそれ以外にも仙台に住みたい理由や愛着を、まちづくりの観点からどうつくっていくのか。それを一市民の目線で考えることはとても大事だなと思います。

MOVE

クロストーク3
「MOVE MOVEどんなことをやったの?」

話し手 / 鹿股とほこさん（学生団体Pompadour）
小西康博さん（小西畳工店 二代目一級畳製作技能士）
山岸えりさん（株式会社SENSE 代表取締役）
大山（仙台市）
事務局　伊藤（コンテンツ）、奥口（ブランディング）

コンテンツの選び方

事務局（伊藤）　18日間で、約60のコンテンツを実施しました。実験コンセプトを踏まえ、それぞれのコンテンツを通して色々なひととなりが見えてくるように、「交流」と「体験」に重きを置いてコンテンツを検討しました。
平日は日常に近い状態のままにしてみる、週末はコンテンツをイベントごとのように入れてみるといったように、平日と週末それぞれの使われ方や、時間帯ごとの変化が見えるよう空間に当てはめていきました。

交流を生み出すコンテンツ

事務局（伊藤）　期間中、天候が悪い日以外はほぼ毎晩たき火を焚いてくれたのが、たき火を囲んで対話の場づくりをしている「仙台たき火ティー」の大石豊さんです。
私も参加したのですが、毎日色々な方が集まってくるんですね。ぽつぽつと喋る方もいれば、その場にいるだけの方もいました。ある時、ほとんど日本語が話せない方が母国の歌を歌ってくれて。自然に手拍子しはじめて一体感が生まれたり、たき火を囲むと自然な繋がりが生まれることを実感しました。
ちなみに、「公共空間で焚き火って、どうやったの!?」という声もたくさんいただきましたね。
仙台市（大山）　はい。実務的な話になりますが、消防署と道路を管理している区役所と調整しました。警察にも相談し、単純に焚き火をやりたいからではなく、焚き火を囲んだ場をつくりたい、やったことがないことを検証したいということを丁寧に説明しました。消防法に書かれている「風速7メートル以上の時には実施しない」や、道路の表面に与える影響がないような設えで、必ず火守をつけることを厳守しました。さらに、災害が起きた時、公共空間は一時避難場所になり得るので、社会実験で賑わいを検証するだけではなく非常事態も想定して行いました。

体験を生み出すコンテンツ

事務局（伊藤）　「体験」できるコンテンツとして提供いただけないかお声がけした方の一人が、小西畳工店の小西康博さんで、畳のベンチと畳コースターを作るワークショップを提供していただきました。
小西　採用している稲わら畳床は、宮城県が全国で最も多く生産・出荷しています。本当に座り心地が良いので、外に居ながら家の中にいるような落ち着いた空間の一助になれたらと、畳ベンチを提供しました。休憩したり、このベンチに座ってストリートピアノを聴く姿も見られました。
事務局（伊藤）　バス停の屋根の下に設置していたので、雨の日も濡れないで滞在して

もらえました。通常のバス停のベンチと並ぶ形で設置していたのですが、畳ベンチは居心地が良いのか、皆さんとても長く座っていましたね。

小西　畳表の余った端材を再利用して作るコースターのワークショップは、イグサ農家さんの思いを最後まで余すところなくお客様の元に届けられたらなと思い実施しました。3歳くらいのお子さんからご年配の方まで、県外の方にも多くご参加いただきました。

自己表現をするコンテンツ

事務局（伊藤）　10月2日には、学生団体Pompadourの皆さんが企画した「RUN YOUR OWN WAY」を実施しました。エリアに敷いた赤いカーペットの上を好きな格好で歩くという参加型企画です。企画の中心となって動いてくれたのが鹿股さんです。

鹿股　「学生が自己表現をできる街にしたい」という想いを企画にしました。好きな格好をしたら街に出たくなる→街を歩き回りたくなる→街への回遊性につながるのではと仮説を立て、ランウェイを歩いた流れで、そのまま街を歩いてもらうことも狙いとしてありました。

当日は、会場に手作りのカーペットを敷いて、大学生のDJに音楽を流してもらいながら、自分の好きな格好で歩いて見せる「ショーランウェイ」と、飛び入りで自由にカーペットを歩いてもらう「フリーランウェイ」を行いました。普段着からドレス、着物や甲冑など様々で、ショーランウェイだけでも50人の参加がありました。

事務局（伊藤）　私もドレスを着て参加しました！子どもの遊び場で遊んでいた親子連れの参加もありましたね。仙台のメイドカフェのメイドさん達がランウェイを歩かれた時は圧巻の光景でした。彼女らの推し活をしているファンの皆さんも会場にいらして、また違った光景が生まれたのも面白かったです。新しい流れが生まれたことはもちろんですが、学生がやりたいことに挑戦できる場をつくれたことも良かったです。

知識や思いを共有するコンテンツ

事務局（奥口）　MOVE MOVEの空間に来られない方にも興味を持ってもらうと共に、仙台で色々な活動をしている人の話や思いを聞くことで、働くひと・学ぶひと・働きたいひと・学びたいひとの気づきの場をつくれたらと思い、YouTubeを使ってインターネットラジオの生配信を行いました。パーソナリティとしてお声がけした山岸さんは、会社経営をしながら子育てをしている方。桃生和成さんは、地域の場づくりを手がけている方ということで、それぞれの立場や視点でゲストを呼んでいただき、自由にお話いただきたいと考えました。

山岸　私の回のゲストにお招きした仙台の老舗企業さんのお話は、仙台で何かにチャレンジしたい人のためになるものだと思いましたし、子育て関連の活動の方のお話には、私自身共感して思わず涙ぐんでしまったり……。色々な思いをシェアする場にできたらいいなと思いながらやっていました。

コンテンツの同居の難しさ

事務局（奥口）　MOVE MOVEでは、音響関係のプロフェッショナルにたくさん携わっていただきました。実験中、大人気だったストリートピアノを設置してくださったのは、カンタービレジャパンさん。空間とペデストリアンデッキにスピーカーを設置してくださったのは、株式会社ミューシグナルの宮崎晃一郎さん。また、公共空間にBGMを提

供するユニット「芝生ホリデイ」の皆さんには、青葉通をイメージしたプレイリストを作成いただき、宮崎さんのスピーカーから流しました。
様々な音を同居させていくことは非常に難しく、期間中試行錯誤を重ねました。宮崎さんは、ストリートピアノを弾いた瞬間にBGMがフェードアウトしていく仕組みを導入してくださったり、プレイリストは焚き火をやっている時間帯が最も合うことがわかったりと、やりながら最適が見えてきました。

MOVE MOVE参加後の変化

事務局（奥口）　MOVE MOVEに参加された後、何かご自身に変化はありましたか？

小西　実験後、このエリアが今どうなっているのか、どんな人がいるのか、通るたびに様子を気にかけるようになりました。

鹿股　大人の方との関わりが増えました。企画を通して「大人って色々な経験を持っているんだ、もっと話してみたい」と思いました。学都・仙台というだけあって、大学生が多いのは感じているのですが、就職で県外に出てしまう人が多く、それはおそらく仙台で働いている大人との接点がないからではと思っています。仙台駅前で無償で滞在できる場所で、大人の方と関われる機会があったらいいなと思いました。

山岸　MOVE MOVEに参加したことで、まちづくりが以前より身近に感じられるようになりました。私の意見も反映されるかもって。
仙台は住みやすい街ではありますが、子育てしやすい街ではないと正直なところ感じています。「仙台で子育てしたい！」と思ってもらえるような参加型の機会がつくれると良いですね。例えば、キッズランウェイも面白いかもしれないし、子どもたちのアイディアで即興で何か作ってみようでも良いですし。子育ては、家族内に負担がかかりがち。私は、社会のなかで育ててもらえるのが理想だなと思っているので、そこにいる人みんなで子どもを見守る、育てられる、そんな居場所があると良いなと思います。

Chapter 05

青葉通
仙台駅前エリアへの想い

MOVE MOVEを経て、実験やエリアに対してさまざまなご意見やご感想が寄せられています。ここでは、市民の皆さんからいただいた声の一部と、エリアの沿道関係者3名のメッセージをご紹介します。

仙台の人って奥ゆかしい面があると思います。
もっと自慢すればよいかと。住みやすさだけでなく、
「こんなこともできる街、認めてもらえる街」に私は住みたいです。
自分が自慢できることがある街は、
自慢の数だけ魅力になると思います。

課題にもあったように、
広告から目的が分からず、
当時調べた結果から、交通規制をして
交通量を調べるということだと認知していた。
今回、話を聞いて、こんな面白そうな
企画をされてたことを知り、
参加したかったです。

東北の田舎から初めて仙台に降り立った時、
さくら野百貨店や仙台ホテルがあって
まさに仙台の顔でした。
その表情はシティ感ある東北の中心地！
仙台の顔は東北の顔ということにも
なるのかなと感じています。

社会実験にロゴなど必要ですか？
これも2億に含まれるんでしょう？
寄ってたかって、
公金で遊んでいるような印象を受けた。
実験は目的でなく、手段なはずです。

繋がろうとした人とは
繋がれる世の中ですが、
逆に繋がろうと思わないと
繋がりづらくなっているのかなと思います。

まちの新しい景色を、
行政だけで創るのではなく、
様々な事業者の企画サイドも様々な
バックグラウンドを持つ参加者が
中に入ることで、
「街の行く末を気にする人」が増えるのは
オープンな社会実験の意義な気がする。

色んな声はありますが、
初めて他県の友人に対して、
自慢したくなる誇らしい
取り組みだったと思いました。

通行止めをしてまで行うことではない
ということです。
言われる通り旧さくら野とエデンの開発と
密接に絡んでいます。これをやりたいなら、
この両側の再開発時点で、
連絡橋を設置する事です。
十分社会実験での行いはカバー可能です。

送迎車で溢れている姿、残念ですよね。
ひどいときには、青葉通から直進で来た車が
降車場に入りきれず、交差点内で止まってしまい、
クラクションを鳴らされている光景もありますし。
顔として表情を考えて行くこと、
赤や青のデザインを検討していくことは
「挑戦」としてよいですが。
仙台のまちづくりでこれまでなかったことですし、
寧ろデザイン、色、コンセプト検討は
若い人を中心にどんどんすべき。

ロゴがあることでイベントの印象も強くなり違和感を最初は持ちましたが、
少しずつ違和感の理由がわかるようになりました。
これまで他の地域ではここまで印象に残る
ランドマークのようなイメージを強烈に持ったことがなく、
新しい仙台を感じます。

「交通面で都市計画に毀損を与えかねない」と
意見している人がいますが、
確かに車で駅に完全にいけなくなるのは嫌。
しかし、車で駅に行けなくなるとは
言ってなかったし、
どのような顔、表情、心臓？にしていくかを
旧さくら野の再開とあわせて考えていくのは
良いのでは？
「現状でよい＝何もしないこと」なので、
すぐには感じなくても衰退して行くばかりであり、
気づいた時には手遅れになるのでは？

旧さくら野の百貨店の壁やバス停、
エスカレーターなど既にある
街の構造物を使うことで、
普段との違いを
演出する取り組みって
良いなと思います。
風景のリノベーションみたいでステキ

イベントとして見えていいのかなと思いました。
社会実験だと私は後から知りました。
楽しそうじゃないとペデから降りて
いかなかったです。降りたからこそこうやって
このイベントにも参加してみました。
にわか参加ですみません！

色んな社会実験やイベントを見ると、
ターゲットを明確にする＝目的地化してしまう。
そこから漏れてしまう人に来てもらえないことは、
多様性を大事にしていくこれからの街に対して、
対象が閉じてしまうと思ってたので、
目的がなくても行くことができた今回の取り組みは、
図書館みたいにふらっと立ち寄れた。
図書館は、借りようと思っていくだけじゃないし、
偶然出会う面白さがある。
終わってみて、目的がない社会実験中のほうが、
よくあの場所を訪れた。

青葉通仙台駅前を「仙台一・居心地の良いまち」に
あらゆるハードルが高くても
志を持たないと良いまちにはならないと思います

渡邉 博之さん

（仙台駅前商店街振興組合 理事長 ／
仙台駅周辺帰宅困難者対策連絡協議会 会長）

青葉通仙台駅前エリア社会実験「MOVE MOVE」の期間中、会場に足を運んでみると、そこではさまざまな実験が行われ、近くでは「みちのくYOSAKOIまつり」の演舞で出演者の出入りもありました。仙台駅前は、一市民として、駅前商店街に関わる身としても私の「ふるさと」なので、久しぶりにこのエリアでにぎわいが生まれた事は嬉しかったです。

一方、MOVE MOVEに伴う青葉通の車両制限に関しては、想像通り渋滞などの影響があり、否定的な意見が私の耳にも入ってきました。これらも踏まえ、社会実験が青葉通の南北両エリアの再開発において、企画運営の参考となる部分があったことを期待したいです。

これからの青葉通仙台駅前エリアに必要なのは、一つ目に、仙台の玄関口としての個性を醸し出すことです。まちの個性は、風土×歴史×人の営みによって成り立つものと考えているので、伊達の歴史や文化を感じさせる設え、「杜の都」にふさわしい景観が、ガス燈の政宗公騎馬像以外にも必要だと思います。

二つ目は、このエリアの「新しい日常」を生み出すことです。青葉通の南北両エリアの再開発の形が見えてこないことには、それに合わせた道路空間の再構成の在り方も具体的には検討しにくいと思いますが、通行面では、ペデストリアンデッキの延伸も選択肢に入れておくべきだと思います。

防災の点でも、ハード・ソフト両面において、しなやかで強靭なエリアを目指す必要があります。仙台駅西口エリアでは、大雨による浸水被害対策の雨水幹線工事も進んでいるので、交通機関がストップしてしまうなどの非常時に安心して滞在できるエリアになるのが理想です。また、仙台は元々風が強いので、南北両街区が高層化した場合の風対策は相当念入りに行わなければいけないと思います。とにかく後発の利をしっかり活かすことが肝要です。

仙台の玄関口としての個性を醸し出しながら「新しい日常」を実現していく。それは相当ハードルが高いことですが、それくらいの志を持たないと良いまちにはならないと思います。

20年後の2044年、私は84歳になっています。仙台は長らく「健康都市」を高らかに謳っていましたし、「ウェルビーイング」なエリアを目指すのが良いと思います。

若者たちが街歩きを楽しむにぎわいのなかで、ベンチに腰掛け、日向ぼっこや木陰での読書ができる。若者にとっても私にとっても、青葉通駅前エリアが「仙台一・居心地のよいまち」になっていたら嬉しいです。

強みはペデストリアンデッキと幅の広い通り
変わり目に来ている青葉通仙台駅前エリアに
アーケードと連携しながら経済活動を取り戻したいです

佐藤 敦さん

（株式会社エスボックス 代表取締役）

青葉通のあり方検討協議会のメンバーのなかでも、1954年に生まれた私が、仙台駅前で生活していた最後の世代だと思います。子どもの頃は、今の仙台PARCOのある辺りに住んでいたんです。そこから名掛丁商店街を通って東二番町小学校に通い、帰りに大正園さんでお茶のお振る舞いを飲んで帰っていました。仙台のなかでは一応、都会っ子でしたよ。

青葉通には屋台がたくさん出ていて、仕事帰りにご飯を食べたり飲んだりしていた人もいました。屋台が禁止になり、歩道も広がり植樹もされて綺麗な通りになると共に、どんどん生活感がなくなっていきました。息子が子どもの頃には、皆さん郊外に住むようになり、駅前にはほとんど家がない商業中心のエリアになっていました。

昨今の青葉通仙台駅前エリアは、銀行や証券会社など、地元資本ではない大手企業の支店ビルがどんどん建ち、100年余りの歴史ある地元の企業さんも郊外に移転されています。駅前の地価がつり上がり、オフィスビルの一坪当たりの賃料がものすごく下がって軒並み計算が合わなくなってきてるんですよ。土地を持っている立場としては、投資が難しいエリアであるのが現状です。

仙台の横丁文化というのは、メインストリートあってのもの。つまり、メインストリートが衰退すると横丁もだめになってしまうんです。駅前にお金が集まり、人が集まり、経済活動が回っていくことでそれが派生し、仙台駅前で七夕や光のページェントなどのお祭りが開催できたり、横丁に志ある人たちのお店もできる。お金を生める大本の経済活動がないために、エリアが発達していかないことは実感としてあります。

このエリアの強みは、ペデストリアンデッキと幅の広い青葉通。この2点だと思います。これらを生かすためにも、アーケード商店街との連携は考えなければいけません。人の流れの観点から、ペデストリアンデッキの存在は大きいので、この人の流れをうまく使って、アーケードから仙台駅前に繋がる複数のルートを作る必要性もあると思います。

エリアの将来ビジョンにおいては、大まかな目標を立てると話を進めやすいですよね。例えば、「チャレンジシティ」として、チャレンジシティだから目新しいことに挑戦するとか、「横丁シティ」として、横丁のお店を充実させるための経済活動をしましょうとか。このエリアが変わり目にきているのは間違いありません。変わらざるを得ないので、「あなたはどう変えたいですか?」の答えをそろそろ出していかなければならないと痛感しています。

エリアの方向性やイメージづくりは公共空間から アイディア出しとそれに対する議論は どんどん思い切ってすべきです

佐藤 徹さん

（株式会社エスボックス 取締役）

1985年生まれで仙台育ちの私は、小さい頃仙台駅の近くに住んでいたので、母親と一緒に、さくら野百貨店の地下で買い物や食事をしたりしていました。青葉通には東宝ビルや落ち着いた色合いのレトロな建物が残っていて、古き良き雰囲気のあるエリアだったと記憶しています。

高校生の時、放課後の遊び場といったら仙台駅前でした。当時はペデストリアンデッキ直通の大きなゲームセンターがあり、その辺りで友達と遊ぶのが日課でした。今では綺麗になり、老若男女問わず人が集まっていますね。

青葉通の西公園側や大町界隈には、個人経営のお店が増えていて雰囲気が良いですよね。一方で、青葉通仙台駅前エリアにそれらを持ってこようとすると、地価とのバランスや、商業ボリュームとしては規模が小さすぎてしまいます。もし、仙台駅前が連携するならば、週末限定で大町界隈のお店の方が出店できる場所を提供することや、これから検討していく将来ビジョンやエリアのコンセプトを軸にした体験型の企画などを実施できたら面白いのかなと思います。

旧さくら野百貨店側の地権者としては、「エリアとしてこうありたい」という希望やビジョンがあったとしても、事業性を考えると必ずしもその通りにできるかどうかは定かではありません。結論、エリアの方向性やイメージは、道や公共空間側から作り出していくのが最良だと思います。

これについては、ある程度、仙台市側で明確なビジョンを示した方が賛否共に具体的な意見が出やすくなるのかもしれません。それくらい、将来のあり方のアイディアはどんどん前のめりで出して議論していって良いと思うのです。

個人的に、この両沿道には、ペデストリアンデッキだけではなく、現在青葉通の地下にある東西地下自由通路からも行き来できるようにすることで、エリア全体の人の流れが活発になるのではと思います。さらに、地下に出店できるのであれば商業面でも盛り上がり、人の流れも大きく変わるのではないかと想像しています。

フィットネスクラブ
GOLD'S GYM
7F (716)8868
ABI
DAI
EDEN
AVEX
消火栓
バス停

アイリスオーヤマ

社会実験準備事務局メンバー

キュレーション（情報整理・定性調査サポート）	岩間 友希（あいだ研究所 代表）
	昆野 沙耶（Studio Soda Sendai）
	友渕 貴之（宮城大学 助教）
ブランディング（全体コンセプト）	奥口 文結（FOLK GLOCALWORKS）
コンテンツ（運営支援）	伊藤 小百合（エンスペース株式会社）
空間デザイン	貝沼 泉実（KAI ARCHITECTS）
ビジュアルデザイン	小松 大知（TORCH）
プロモーション（Web・SNS、広報戦略）	伊藤 愛発（一般社団法人ONE TOHOKU HUB）
実施協力	青葉通まちづくり協議会
行政担当課	仙台市都心まちづくり課
効果検証・調査分析	株式会社オリエンタルコンサルタンツ

出展者

アットアロマ株式会社／アンデックス株式会社／エンスペース株式会社／ベクセス株式会社／株式会社アトリエシエル／株式会社オリバー／株式会社ミューシグナル／株式会社泉緑化／株式会社乗馬クラブ クレイン／株式会社東北プレス工業／株式会社NTTファシリティーズ東日本事業本部東北支店／株式会社MISTRAL／合同会社メリーメリークリスマスランド／有限会社コニシ 小西畳工店／一般社団法人 花降る街、仙台／一般社団法人～東北を明るくする～ 仙台ストリートピアノ協会／一般社団法人 ONE TOHOKU HUB／NPO法人ヨガビリージャパン東北支部／NPO法人 冒険あそび場／NPO法人 メディアージ／仙台89ERSホームタウン協議会／みちのくYOSAKOI祭り実行委員会／南三陸森林管理協議会／ボッチャフェス in 仙台実行委員会／アトリエ パティオ／お笑いコンビガールズナイト／カンタービレジャパン／くまっけJAPAN／コトマグ／ティノテンダ／とうほくプロコン／ハウスカ！モルック仙台／織田流煎茶道／風の時編集部／金属工房KAMASHO／芝生ホリディ／三味仙座／仙台たき火ティー／伊達忍者「一の草」／友屋／宮城県モルック協会／杜の工房／八百万の神開運暦／Atelier Smile DAIYA／NAS DANCE DESIGN／Splendide blanche／Stella Yoga／学生団体ari／学生団体Pompadour／宮城学院女子大学 parfum／宮城学院女子大学 生活文化デザイン学科 都市デザイン研究室／東北大学モルックサークル もるさー／東北福祉大学 起業フィールドワーク有志 ひまわり／CATS -Community Architect Technology- ／ガロート川村／デェラ哲也／ユキカリエンテ／リモワージュ（きたーみ。）／及川けい／叶夢／桃生和成／山岸えり／仙台市文化観光局スポーツ振興課／仙台市文化観光局東北連携推進室／仙台市文化観光局誘客戦略推進課／仙台市子供未来局総務課／仙台市都市整備局都心まちづくり課

MOVE MOVE ARCHIVE BOOK

発行日	2024年4月10日
発行	青葉通駅前エリアのあり方検討協議会　将来ビジョン検討事務局
ディレクション	小松 大知（TORCH）
編集	奥口 文結（FOLK GLOCALWORKS）／小松 大知
編集補	貝沼 泉実（KAI ARCHITECTS）／伊藤 愛発（一般社団法人 ONE TOHOKU HUB）
写真	佐藤 早苗（p28, p36-47トーク, p51上 , p54-55）／難波 明彦（ティーラムスタジオ）（表紙 , p4-5, p17中, p23, p39下）／佐藤 正実（風の時編集部）（旧さくら野百貨店前展示写真）／東北学院大学写真部（p20左下,p32一部,p46小下,p47）
デザイン・イラスト	白田 亜悠
印刷	今野印刷株式会社

社会実験 MOVE MOVEの会場にお越しいただいた皆様、
交通規制・効果検証・利活用空間の企画運営にご協力いただいた皆様、
青葉通仙台駅前エリアのあり方にご意見・ご関心を寄せてくださっているすべての皆様に、
深く感謝を申し上げます。

MOVE MOVE
青葉通仙台駅前エリア社会実験

＊冊子中の施設名称は、社会実験開催時点（2022年9月）での名称で記載しています。
＊グラフ出典：青葉通駅前エリアのあり方検討協議会、分析会資料より

MOVE MOVE

青葉通仙台駅前エリア社会実験

青葉通駅前エリアのあり方検討協議会　将来ビジョン検討事務局